

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500332		
法人名	社会福祉法人 陽和福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームどんぐりの森		
所在地	愛知県春日井市高森台5丁目6番地1		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1 レインボー四女子902		
訪問調査日	平成30年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の下、職員と一緒に買い物や調理、家事を行ない、楽しみながら役割を持って、出来る限り自立した生活を継続できるような支援に心掛けています。又、近隣の植物園や資料館、紅葉狩り、スーパーへの買い物などへの外出を随時行っています。お花見やお月見、干し柿作り等季節行事も毎年行っています。その他、将棋や囲碁、麻雀、貼り絵と言った趣味活動や季節行事は、他部署やユニット間の交流も兼ね楽しんで頂けるよう支援しています。仏画教室や園芸部、歌の会、水彩画教室、映画上映会等、個々で楽しんで頂ける活動も用意しています。医療面では、嘱託医の定期往診と訪問看護による訪問により日々の健康管理に努めています。ユニット内は花を飾ったり、入居者さんが作った暖簾や小物を飾るなど、温かみのある環境作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームと同一敷地にあり、小規模多機能居宅介護事業所を併設し運営している。管理者が両事業所を兼務しており、一体的な運営が行われている。行事の際には事業所間で職員が連携し、多くの利用者が行事に参加できるよう取り組みが行われている。地域の方との交流や外出の機会を徐々に増やしており、地域で行事が行われる際には併設事業所とも連携し参加することで、利用者にとって外出の機会の増加につながっている。
また、法人の母体が医療機関であり医療面での支援が充実しており、利用者の健康状態の変化に合った支援を行うことにより生活の継続につながる取り組みが行われている。複合型施設のメリットを活かしている中、30年5月に隣接地にサービス付き高齢者向け住宅を開設した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は新規入職時に管理者がオリエンテーションを行い伝え、事業所内に掲示している。3つの事業所があるので、研修等を通じ理念の共有と実践に努めている。	法人の基本理念を支援の指針として、利用者への支援につなげる取り組みが行われている。また、小規模施設ならではの良さを活かし、職員一人ひとりが目標を持ち理念の実践につなげる取り組みが行われている。	3つの事業所があり、地域と一体になったグループホームの運営を進めている。外部の風を入れながら、現在の運営状況の継続を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2日程度、入居者とともに買物に出掛けられている。毎年、地域の夏祭りに参加しており、幼稚園児が訪問に来て頂くこと及び歌や演奏のボランティアを受け入れている。	地域の店へ買い物にでかけたり、地域の行事にも積極的に参加している。幼稚園や中学生・高校生との交流があり、歌や演奏のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所全体で、第1, 3金曜日に認知症カフェを開催し、地域の方への認知症の啓発活動を行っている。喫茶どんぐりを使って、隣の障害者施設の入居者に日曜喫茶を開いてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、事業所の取り組みや困難事例の報告を行い、どういった関わりが入居者に必要か等を発信し、意見を聞いている。地域のイベントの情報を提供してもらい、可能な限り参加させてもらっている。	3事業所合同で年6回、民生委員、老人クラブ代表、町内会代表、地域包括支援センターなどの参加を得て開催している。家族の参加もあり、スライドを使用して現況報告を行うとともに相談の場として活用している。	ややマンネリ化している。地域や周辺の環境から開かれた事業所として、福祉ニーズの把握やさらなるサービスの質の向上にむけた継続的な取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	春日井市が行なっている介護職員を紹介する「介護ラブレター」のコーナーでグループホームの職員を紹介してもらった。また、介護相談員の派遣も受けている。	定期的に市を訪問する機会は少ないが良好な関係にあり、春日井市主催の事業や研修へできる限り参加するよう努力している。介護相談員の派遣を受け、利用者の相談等に応ずる活動も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室、ユニット出入口の施錠は行っていない。その他、身体拘束にあたる行為は行っていない。人権擁護の研修を行いスピーチロックにも注意を払っている。	身体拘束をしない体制が整っている。権利擁護について常に関心を持ち、自己啓発や研修で安全確保に努めており、見守りの徹底により利用者の自由な生活を実現している。居室もユニットの出入り口も自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については職員のみならず、利用者ともコミュニケーションを多く取り、そういった事が防ぎやすい環境作り心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がいる入居者の看取りの対応について、隣接の特別養護老人ホームで行った際には、成年後見人の役割と身元引受人の違いなど、多くのことを習得することができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を丁寧に説明することにより、ご家族に理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族の代表にも参加して頂き、お話を伺う機会を設けている。各ユニットにおいては入居者やご家族へ積極的に話しかけ、要望等の反映に努めている。	利用者から日々のケアの中で意見を聞くとともに、家族からは面会時や行事、運営推進会議などで意見や要望を聞いている。事業所の運営に対し意見・要望や提案があり、積極的に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにおいて毎月ユニット会議を開催し、意見を議事録にまとめて管理者以下、隣のユニットや事務職員にも回覧している。また、毎月リーダー会議を行い、ユニットリーダーから各ユニットの意見を聞いている。	日々の申し送りやミーティングで職員の意見や提案を聞き、運営に反映するよう努めている。併設の事業所における職員との意見交換を行いつつ、事業所の運営についての意見や提案及び情報を共有している。	管理者がグループホームと小規模多機能事業所の管理者を兼ねていることもあり、多面的かつ多角的な角度からさらなるサービスの質の向上を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理ソフトを活用し、適正な労働時間を把握している。今年度から「処遇改善加算Ⅰ」を取得し、職員の評価制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員や経験の浅い職員には、特に注意して内外の研修を進めている。中核になっていく職員には、認知症介護実践者研修を随時進めている。OJTとともにユニット会議を重視し、随時指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	春日井市居宅介護事業者連絡会に加入し、各施設との交流に努めている。忘年会等の交流会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画書作成前には、必ず現場の職員も同行したうえで面談を行い、希望やニーズを確認している。また、日頃からコミュニケーションを図り、そこから得たニーズや情報をもとに的確な計画作成に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人がいない場所で、ご家族からこれまでの経緯や悩み事及び今後の希望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の方針、環境を説明し、入居ニーズの優先度や適性を把握しうえて、状況により併設の小規模多機能や老人福祉施設の照会を行っている。今年の春隣にサービス付き高齢者向け住宅を開設し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの性格や得意分野を把握し、食器拭き、料理の盛り付け・配膳、洗濯干しや洗濯たたみ、園芸活動等に協力し合い行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診については、系列の病院以外にご家族に付き添いを依頼している。日常的には、散歩や外出・外食に連れ出してもらったり、髪を切りに来られるご家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	華道のお弟子さんの面会が入居から5年目の現在も続いている利用者もある。また、以前に知り合いであった方に再会したときなど、利用者にとって馴染みの人と気軽に会える雰囲気作りに努めている。	利用者が大切にしてきた人間関係などが継続できるよう支援し、利用者が望んでいることができる限り実現できるよう取り組んでいる。家族との外出を奨励しており、馴染みの場所への外出等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で一緒に食事をしてもらっている。また、数人で一緒に買物や外出する機会を作っている。一緒に生活を送る中で、皆さんが自然と助け合っている場面をよく見かける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別養護老人ホームへ移った入居者や自宅へ戻った利用者が小規模多機能を利用した際には、入居者・職員ともども相互に訪れ、元居た利用者と一緒におやつやお茶をする機会もある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取っており、積極的に思いや意向を把握するよう指導している。本人の希望と身体的・社会的なニーズが相反するような難しいケースは、責任者が対応している。	親身になった対応を心がけており、利用者の要望について職員が共通意識のもと「実現」に努めている。日常の様子や仕草などから思いをできるだけ把握するように努めるとともに、丁寧な支援と対応に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に行ったアセスメントを基にこれまでの生活習慣とリズムを継続できるように努めている。入居後もご本人の様子を見守り得た情報を記録し、全員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートにより把握に努めている。気付いたことは記録に残し情報の共有に努め、入居者の暮らしがその人らしくいられる様心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ユニット会議を開き、職員間で意見交換をしている。また、他の職員との話し合いにより、良いケアの方法を検討している。	月に1回ユニット会議を開くとともに、担当者を中心に6ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。利用者本人と家族の意向を重視し、意向に沿った介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々起こった変化等を介護記録に記載し、職員全員で共有するようにしている。各種情報は共通した認識が持てるようケアプランに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の外出や買い物などの希望にできるだけ応じている。貼り絵や趣味特技を披露できる作品展も毎年行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の植物園でのイベント、市役所での展示会、地域の夏祭りなど地域の行事の情報を仕入れ、参加するようにしている。施設の敷地を利用し、市民の団体に木の植樹や季節の花の管理をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の春日井リハビリテーション病院の往診・受診等、入居者の情報は事前に医師へ知らせるようにしている。他の医院への受診についても日頃の情報提供をしっかりと行い、必要があれば付き添うようにしている。	系列の医師の往診はもとより、職員による医療機関への受診支援も適切に行われている。他の医療機関への受診も情報提供を的確かつ適切に行っており、医療面での柔軟な対応がつけられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護ステーションの看護師が訪問に訪れている。その際に日頃の情報提供を行い相談事なども行っている。日頃関わっている看護師には何かあればその都度報告し、往診時にも付き添ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の相談員と日頃から情報交換を行い、入院前、入院後の入居者の状況を相互にやりとりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、文章を用いて重度化対応指針の説明、同意を得ている。本人の症状に合わせ、急性期の病院、慢性期の病院を紹介するようにしている。	利用開始時に終末期の支援について、本人と家族に説明している。体調など状態の変化により医療が必要となった場合などは家族等と話し合いをもち、医師の意見も加味して方針を決定している。他施設への移行も含め、最善の方法による支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者ごとに急変時にはどこの病院を受診するか事前に聞き取りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的実施している。地区の小学校で行なわれる防災訓練に職員を派遣し、災害対策において地域との連携を図っている。	年2回の避難訓練では、夜間想定訓練や通報装置の確認も行われている。3事業所合同の連携した取組みも行われており、協力関係も確認されている。災害に備え、水や食料等の備蓄品は3日分確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方や話し方など入居者が不快感を感じない言葉かけや対応に心掛けている。また、認知症対応マニュアルにより声掛けの大切さを全職員に伝えている。	利用者一人ひとりを大切にする支援を掲げており、職員の言葉遣いや対応も適切に取り組んでいる。接遇に関する研修が行われており、注意喚起等も含めた職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を用意してできるだけ本人に選んでもらうようにしている。入居者が自分の希望や思いを伝えやすい環境にある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合った暮らしができるよう支援している。食事や入浴の時間、行事への参加など希望に添うようにしている。入浴の順番やテレビのチャンネルなど入居者が相互に融通をきかせながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好みを大切にして、入居後も継続できるよう努めている。お化粧をする習慣のある人は入居後も毎日されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立メニューをボードに掲示し、皆さんにお知らせしている。役割が持てる入居者にお手伝いをしてもらい、一緒に楽しんでいる。	利用者の能力に応じて準備や盛り付け、後片付けを一緒に行っている。和気あいあいと食卓を囲み、大家族の食卓の風景がある。世話を焼く人、焼かれる人、役割をこなす人など、賑やかに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供している。嚥下機能が衰えて来た時はやわらか食を提供し、食事量、水分摂取量も記録している。食事の好みは把握しているものの、個人で嗜好品を用意している入居者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら行える方の実施状況の把握と記録、及び援助が必要な方への促しなどの介助は行っているが、毎食後とまではいかないところがある。夜間には歯ブラシとコップの消毒、入れ歯の洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員がトイレで排泄している。本人の羞恥心に配慮しており、自ら汚物パットの始末ができるよう、新聞紙と蓋付きゴミ箱を用意している。トイレに間に合わない人には、早めの声掛けを行っている。	トイレでの排泄を基本に支援しており、利用者の自尊心に配慮したケアに心掛けている。職員間で情報を共有し、一人ひとりの身体状況等に合わせた介助や声掛けをし、トイレでの排泄を促す支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握と促しは確実にしている。運動量については個人差があり、能動的に行えない方への促しについては、職員によって差が大きく、今後の課題の一つである。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日やタイミングは固定せず、一日おきの人が多いが希望やニーズに応じて入浴していただいている。当日の朝に希望を聞いているが、健康状態や血圧の関係で意思に沿えないこともある。	日中時間帯における見守りを支援の基本としており、利用者は曜日も時間も自分で好きな時間に入浴できる。健康状態等によって希望に沿えないことがあるとはいえ、利用者本位の支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室になっているため、個々のペースで休んで頂けるようになっている。本人から希望があれば他の入居者が部屋に入らないよう、部屋の施錠も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が配薬のセッティングをしている。、用法や容量のしっかりした理解は、介護職員によって個人差が大きいが確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内行事、ボランティアによる催し、クラブ活動を行っている。一人ひとりに合った役割や、嗜好品、楽しみ、の支援を日々行えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気の合った人と寺カフェや植物園、紅葉狩り、道の駅、外食など外出計画を立てることもあり、協力して頂けるご家族には外出するよう促している。	施設内は自由に出入りができ、敷地内にある菜園で花や野菜を育てており、水やりや収穫する楽しみをもらっている。施設外への外出行事を企画し、わずかな時間でも外出できるように支援しており、家族との連携のもとで個別外出も促している。	高齢化、重度化により外出の機会が減少していく傾向にある。今後はボランティアや地域の方々の協力のもと、外出の機会を増やす取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理ができる方は財布を自分で持ってもらっている。自分での管理が難しい方は事務所でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もみえる。連絡を取りたいときにはいつでも連絡をとれるような体制になっている。遠方に住むご家族から定期的に、手紙が届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を育てている。入居者が作った表札や置物の小物・暖簾などを使い、温かみのある客間作りに努めている。	明るい雰囲気の中食堂と居室がワンフロアになっており、入居者の動きや気配が一目で見渡せるようになっている。壁には季節の飾り物や塗り絵などが飾られて温かみを感じられ、ソファなど団らんができる工夫があり、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内に一人になれるスペースはないが、テーブルとイスを多めに配置することにより、沢山の座る場所を確保することで自由に座れるようにしている。中庭や喫茶室へ行くことを制限していない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたなじみの物を持ち込んでもらっている。希望に応じて、机と一緒に作ったり、木製のベッド柵を作ったり、色々と工夫している。	利用者が自宅で使っていた物を持ち込み、一人ひとりの希望に即した居室づくりが行われ、安らげる物に囲まれた生活ができる工夫がある。身体状況に合った、心地よい居場所となるように配慮もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況把握に努め、自立した生活が送れるよう必要に応じた環境整備を行っている。		